

別紙様式 2 (高)

<p>育相談の機能を生かし、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>③ キャリア・パスポートを活用した、見通しがもてるキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識の向上を図るとともに、多様な進路希望に対応できるような体制を構築する必要がある。</p> <p>④ 主体的に活動できる学校行事や生徒会活動等の工夫改善をして、集団の一員としての意識や自己肯定感の向上に対する支援を充実する必要がある。</p> <p>⑤ 基準を超える超過勤務の解消に向けて、学校運営体制と業務改善を推進する。</p>											
		4	多様性を認め、他者を尊重する態度を育成する	ア 家庭と連携・協働することで遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加による転退学者数が減少できるようにする。							
		5	キャリア教育の充実を図る	ア 各年次段階に応じた進路ガイダンスや進路別見学会、ロングホームルーム等における進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 先を見通した綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。							
		6	特別活動の活性化と部活動の充実を図る	ア 生徒が自主的・実践的に活動できる環境づくりに努めるとともに、活動を通して豊かな人間関係づくりや自主性や自発性の伸長を支援する。 イ 教職員や外部指導者等による支援体制を整備し、部活動の充実を図る。 ウ ホームルーム活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持てるようにする。							
		7	フレックススクールとしての特長を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア 生徒も教職員も成長できる学校を目指し、「荖崎プロジェクト2025」を計画・実行する。 イ フレックス制・単位制の特長を生かした教育活動により、「学びの質保証」を行う。 ウ 校内研修の充実と研修機会の有効活用によって、教職員としてのスキルアップを図り、生徒に還元する。							
		8	職場環境を改善し、働き方改革を推進する	ア 職員のウェルビーイング向上のため、超過勤務時間者の校務を見直す等、業務の平準化に努める。 イ ライフワークバランスを重視し、時差出勤制度等の各種制度の積極的な活用を図る。 ウ 業務の適正化や校務DX化、可視化を推進し、業務負担を軽減するよう努める。							
		評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題			
		教科指導	国語	① 「分かる」授業を展開する。	教材を精選し、ICTを積極的に取り入れ、生徒が主体的に取り組める分かりやすい授業づくりに努める。						
個に応じた指導を行うために、科目担当者間での共有を密に行い、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる生徒のサポートを充実させる。											
学習意欲を喚起するために、見通しと振り返りを重視する授業を行う。											
② 基本的な国語力の向上を図る。	小テストや定期考査、基礎学力診断テスト等の結果を活用し、常用漢字やことわざ、平易な読解力等の国語力を向上できるようにする。										
	思考力・判断力・表現力を育むための基礎的な国語力を身に付けるため、学び直しの授業を行う。										
地歴・公民	① 基礎的・基本的な知識の向上を図る。	社会的事象に関する理解を図るために、基礎的・基本的な事項を繰り返し学習する機会を積極的に設ける。									

別紙様式 2 (高)

教科指導			授業での振り返りや小テスト、定期考査等を活用し、知識を定着できるような取組を行う。		
		② 社会的事象に関する興味・関心を高める。	教材を作成したり、ICT等を積極的に活用したりすることで、生徒の社会的事象に関する興味・関心を高め、生徒の授業満足度を高める。		
		③ 表現力の向上を図る。	プレゼンテーションやエッセイなどの活動を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図ることで、生徒が様々な方法で表現する機会を設ける。		
数学		① 基礎的・基本的な学力の向上を図る。	定期考査や「高校生のための学びの基礎診断」等の結果を活用し、個々の能力に応じて小・中学校の復習から高校数学の応用問題まで幅広く取り扱うことで、基礎学力の向上を図る。		
		② 「分かる授業」を展開し、学習意欲の向上を図る。	「分かる授業」と学習意欲の向上のため、授業担当で学習内容や教材を検討する機会を定期的に設ける。 数学検定や個別指導、課題等を活用することにより、数学への関心や更なる意欲の向上に努める。		
理科		① 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	自然の事物・現象に関して思考を巡らせ、考えたことを表現できるように言語活動や振り返り等の充実を図る。 既習内容との関連を意識でき、系統的な知識が身につくような授業を展開する。		
		② 自然の事物・現象に対する興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。	観察・実験、視聴覚教材やICT等を積極的に活用し、生徒の実態に応じた授業内容・授業方法を精選・工夫する。 身近な事物や現象を題材とし、日常生活と結びつく身近なトピックを授業に取り入れることによって、興味・関心を高め、学習意欲の向上を図る。		
保健体育	体育	① 運動量の確保と生涯を通じてスポーツに取り組む態度を育む。	生徒の健康状態、体力、特性等を把握し、クラスや個の実態に応じて運動種目やルールを設定することで、主体的に運動に取り組む環境づくりに務める。また、年6種目以上の種目に触れる中で、生徒が自ら動き、学ぶことの楽しさや達成感を覚えるよう授業を実施する。生徒満足度(KPI)「授業を通して、ルールを理解する」とともに、できなかった(分からなかった)ことができる(分かる)ように指導する。 体育施設の破損や悪天候(猛暑など)などによる授業への影響を減らせるような工夫、ICT活用の工夫、ITの効果的な活用を行う。		
		② 課題の解決に向けた学習活動を通して、運動の質の向上を図る。	自己の課題に応じた目標を設定し、解決に向けた学習過程の中で、改善点等を視覚的に分かりやすく提示するとともに、適切なアドバイスを行う。		
	保健	③ 適切な意思決定・行動選択ができる能力と保健の知識の向上を図る。	保健の知識を習得、活用し、的確に思考、判断、表現することができるように、社会で起こっている具体的な事例をあげながら学習指導を行う。また、自ら必要な情報を手に入れる方法や手段を見つけられるようにするために、ICTを積極的に活用し、主体的に取り組む環境づくりを行う。		
		④ 学ぶ姿勢と学習意欲の向上を図る。	毎学期2回の課題提出に向けて主体的に取り組めるよう、望ましい授業態度が身に付くよう指導するとともに、ICTを活用する機会を設定し、自ら調べたり、視覚的に分かりやすい情報を得られたりする環境づくりを行う。		
芸術	音楽	① 音楽を愛好する心情を育む。	音楽の表現及び鑑賞を通して感性を高め、実生活においても音楽文化に親しむ心情を育成する。		
		② 創意工夫を生かした表現のための基礎技術の確実な定着を図る。	自己のイメージをもって表現を創意工夫できるよう、実習においては個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がける。		
		③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。		

別紙様式 2 (高)

教科指導	美術	① 美術への興味・関心を高め、表現する喜びを味わう態度を育む。	社会における美術の役割や作者の表現の意図といった美術に関する知識を深める時間を設ける。また、自身の興味関心について考え、様々な造形要素や素材に触れながら表現活動を楽しめるような授業づくりをする。		
		② 基礎的な知識と技能の習得を図る。	鑑賞活動やワークシートの記入を通して、基礎的知識を身に付ける時間を設ける。また、知識や技術を視覚的に分かりやすく伝えるために、教員の実践や ICT を活用する機会を設ける。さらに、生徒の資質や能力に応じて適切な技術支援をする。		
		③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。		
	書道	① 創作意欲の向上を図る。	小筆、大筆の特徴に合わせた書の表現を確認し、創作の意欲をもてるようにする。臨書から漢字仮名交じり文、実用の書へ発展させる。		
		② 表現意欲を高め、作品を完成させる喜びを味わわせる。	主体性を尊重し、用具・用材を選定し、文化祭、学年末に合わせ、作品づくりを行う。		
		③ 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	生徒の資質や理解力に応じたきめ細かな指導を行う。生徒とのコミュニケーションを通して、生徒の思考や表現について理解し、その思考や表現が実現できるよう適切に支援する。		
英語	① 基礎的・基本的な学力の向上を図る。	中学英語の既習事項と関連付けたり組み合わせたりしていく授業を展開することで、英語学習における基礎的・基本的な学力の向上を図る。			
	② 「分かる授業」を展開する。	ティームティーチングや少人数授業を通して、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。生徒の取り組みや反応を見極めつつ、定期的に授業に対するアンケートなどを行うことで、意欲の向上を図り、達成感を得られる授業を展開する。			
	③ バランスの取れた 4 技能の向上を目指す。	自分自身で正しい発音やイントネーションを再生し内容を理解する能力の向上のため、教科書の英文音読練習を繰り返す。 「聞くこと」「話すこと(発表、やり取り)」の能力の向上を図るため、ALT と連携のとれたティームティーチング授業で、生きた英語に直接触れる機会を多く設ける。 教科書に出てくる文法や重要な表現を、ICT 等を活用し、具体的な言語使用場面と結びつけて指導をすることで、内容や全体的な流れを理解できるようにする。			
家庭	① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終業時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付けることで、学習に主体的に取り組めるようにする。			
	② 基礎学力と技術の向上を図る。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにすることで、日常生活が改善できる知識・技術の向上を図る。			
情報	① コンピューターに関する知識・技能の向上を図る。	一人一人の能力に応じて指導し、Word や Excel、PowerPoint、プログラミングの基本を習得できるようにする。			
	② 情報モラルの向上及び情報技術の効果的な利用方法に対する理解の向上を図る。	携帯電話やスマートフォンなど身近な情報機器を教材として取り上げ、情報化が社会に及ぼす影響や課題についての理解を深めさせ、正しい情報モラルや情報技術及び情報機器の効果的な利用方法について身に付くよう授業を展開する。			
総合	① 自己肯定感・有用感の向上を図る。	ライフスキルを高めるための探究活動や体験活動を通して、コミュニケーション能力を高め、生徒が抱える様々な問題を解消できるように支援し、前向きな学校生活が送れるように教育環境を整えることで、ポジティブに生活できている割合を高める。			
	② 思考力・判断力・表現力の向上を図る。	日本の伝統芸能や郷土の文化(三味線や焼きものなど)に触れることや、中国の言語と文化について学ぶことを通して、より広い視野を身に付け、思考力・判断力・表現力の向上を図る。加えて、社会人受講生との学びを通して、社会性を高める。			
商業	① 主体的に考える能力と態度を育	ビジネスに必要な経済に関する仕組みや概念について理解できるよう、単なる知識の伝達では			

別紙様式2 (高)

教科指導		てる。	なく、調べ学習などを取り入れ、生徒の主体性を重視した学習になるよう心掛ける。併せて、調べた内容の報告活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図っていく。			
		② 社会人として必要な資質・能力を育成する。	実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生徒の学習に対する意識を向上できるようにし、12月に実施されるビジネス・コミュニケーション検定で多くの生徒の合格を目指す。			
家庭(専門)		① 主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	始業・終業時の挨拶・服装指導を徹底し、学習用具の準備や実習の準備、後片付けを習慣付けることで、学習に主体的に取り組めるようにする。			
		② 基礎学力と技術の向上を図る。	興味・関心を引く教材を使用し、基本的な被服製作・調理実習を楽しみながら取り組めるようにすることで、日常生活が改善できる知識・技術の向上を図る。			
教務部		① 多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図る。	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業や学習指導の工夫・改善のため、教員相互間での授業参観や教科研修の企画・実施をする。			
		② 業務の適正化や可視化を図る。	校務を分担し、業務の見直しや平準化に努め、校務の効率化を図る。			
		③ フレックススクールの周知・広報活動の充実を図る。	学校案内パンフレットやホームページを通して、本校の特長、取組を発信する。			
		④ 欠課時数超過による科目未履修の生徒の低減を図る。	段階指導を行い、各年次や家庭と連携し、欠課時数過多生徒の支援に努める。			
		⑤ 段階別指導(観点別評価)の見直し・整備を図る。	各教科・各年次と連携し、生徒の指導と支援に努め、成績不振による科目単位未修得の生徒を0にする。			
進路指導部		① 事務処理等の効率化を図る。	実態の把握と指導材料とするために、Google formsを用いて進路希望調査の実施・集計を行う。 Handy 進路指導室デジタル化応援プランを利用し、求人票処理の効率化を図る。			
		② 価値観を形成し、勤労観・職業観の確立を図る。	年次担当者が中心となり、大学・専門学校等の担当者や周辺事業所・職業安定所・地域福祉課等と連携し、進路ガイダンス・進路講演会・進路見学会等を企画する。 様々な職種への理解を生徒に促すとともに、社会人として相応しい資質を育むために、会社見学を1人2社以上行う。			
		③ 計画的・継続的な指導体制を構築する。	生徒の入学から卒業までの一貫した指導計画を全年次に浸透させ、各業務の運営が円滑になされるようにするとともに、各年次との連携を密にするため、部会等を月1回程度開く。 卒業生に対するのケアを行うとともに、各企業に対する教員の知見を深め、在校生への就職指導への一助とするために進路先企業を訪問する。			
		④ 個に応じた指導の充実を図る。	進路ガイダンスや進路見学会において多様な講座・見学先を提供し、生徒の進路意識を進化させ、進路希望実現を図る。 生徒が自ら進路指導室に足を運ぶ機会を増やすよう努めつつ、普段から個々の生徒との面談・相談の充実を促進するために、各種資料を容易に検索・閲覧ができるよう整備する。 『進路の手引き』を発行し、活用を促すとともに、卒業年次対象の進路講演会を実施する。 国立推薦入学者の輩出を目指すために、希望者に対して1年次より個別指導を充実させる。			
		⑤ 個に応じた就労支援の充実を図る。	特別支援学校や関係機関との連携を密にし、保護者・生徒の要望・実情に合った情報提供を行う。			
生徒支援部		① 生徒支援体制の一層の充実を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。	挨拶によるコミュニケーション能力の向上に伴う、良好な人間関係の構築を図るため、登下校指導の体制を充実させる。 すべての休み時間を生徒指導主事及び係分担した全教員で生徒を見守ることで、いじめの早期発見や安全・安心な環境づくりに取り組む。いじめを発見した場合、被害者の安全・安心を確			

別紙様式 2 (高)

		保する措置を速やかに講じ、学校いじめ防止基本方針に基づき、適切に対処する。			
		集団の一員としての自覚や社会人としての素養を育むため、服装頭髪指導やマナー指導の目的を職員間で共通理解し、組織的に取り組む。また、個々の事情に応じた指導も個別に行う。			
		職員の共通理解を図るため、定期的な生徒支援部会の他、必要に応じて臨時での部会を実施する。			
	② 生徒支援に関する教員間の共通理解を深める。	職員の共通理解を図り、学校全体として同じ方向性をもった支援を行うため、生徒支援部会の情報並びに適宜必要な情報を、職員朝会・昼会を通して全職員に周知しながら、支援にあたる。生徒支援に関する知識・理解を深め、個々の職員の支援力向上を図るため、校内研修会を実施する。			
特別活動部	① 生徒が主体的に取り組む生徒会活動を促進する。	生徒会活動の周知を図り、広く生徒の意見を取り入れた生徒会活動を促進するために、生徒会新聞を発行する。			
	② 部活動・委員会活動・HR活動の活性化を図る。	生徒会主催で部活動、各種委員会、HR活動と連携した会議や行事を計画・実施し、生徒が意欲的に参加できるようにする。			
	③ 生徒の成長に繋がるような行事を企画・運営する。	各部の生徒が偏りなく活動できるよう、生徒や学校の実態に合った行事（特に文化祭）の実施を検討する。 教科学習・教科外学習・校外活動の3つの視点で学びを振り返るとともに、将来への展望や見通しを持てるようにするために、各行事においてキャリア・パスポートを活用する。			
保健厚生部	① 安全・安心な学校生活と心身の健康の保持増進を図る。	自身の健康を意識できるよう、各種検診を必ず受診するよう呼びかけ、未受診者4.5%未満を目指す。 生徒が安心・安全に学校生活が送れるように、救急処置・救急体制に万全を期すとともに職員救命講習研修会を実施する。			
	② 健康・安全の意識を高める保健教育を充実させる。	命の大切さや性感染症の理解を深めるため、性教育講演会を実施する。 生徒の健康・安全の意識を高めるために、保健室に配置する図書・資料・掲示物の月1回以上の更新を図る。			
	③ 学校安全の確保、環境美化・整備に取り組む。	安全点検を月1回行い、破損箇所・危険箇所について事務室と連携して迅速に対応し、学校安全の確保に努める。 快適な学習環境や整備を維持するため、生徒が中心となって清掃・環境美化に取り組む。			
	④ 教育相談・個別支援の充実を図る。	配慮が必要な生徒に対する支援の方法を学ぶ機会を増やす特別支援教育巡回相談や校内研修会を年1回以上実施する。 スクールカウンセラー、キャンパスエイド、スクールソーシャルワーカーと適切に連携を図るためにカンファレンスに担任もしくは、年次職員が参加し、情報を共有する。 特別支援教育コーディネーターと協力し、生徒に関する情報や授業観察等から気になる生徒の状況を把握する。必要に応じて、生徒の生活上の困難が改善・克服されるよう通級指導を充実させるために1対1の授業場面だけでなく、小集団でのグループワークを実施し、他者とのやり取りや状況に応じた対応の機会を設定する。			
渉外部	① PTA活動の周知と参加率の向上を図る。	合格者説明会、入学式等において、PTA活動への自主的な参加と協力を呼びかける。 PTA行事や各種委員会運営の円滑化を図るために、本部役員との連絡調整を定期的に行う。			
	② 会員の意見を取り入れ、PTA活動の活性化を図る。	文化祭、研修会等での活動を通して、会員間及び教員との親睦を深め、満足度を高めることで、PTA活動のさらなる活性化を図る。 広報委員会では、会員の負担軽減に努め、委員の意見をできる限り取り入れた広報誌を年1回発刊する。			

別紙様式 2 (高)

		生徒指導委員会では、会員が都合をつけやすいよう少なくとも1か月以上前に実施案内をすることで参加者増加を図る。		
情報メディア部	① ICT 機器の環境整備を図る。	教室での教育用情報機器の利用環境の整備、校内ネットワーク環境の整備を図る。		
		日々のセキュリティ管理とトラブル対応、適切な保守点検に努め、日常業務が円滑に実施できるようにする。		
		教育活動に必要な機器の導入・整備・更新、ソフトウェアの調査・研究を適切に行う。		
	② ICT を活用した学習指導の充実を図る。	教育活動に効果的なアプリの利用法や活用場面を開発し、職員の ICT 活用能力を高めることにより、生徒の授業満足度を高める。		
		教育活動に必要な ICT に関する知識を職員で共有するために、校内研修を企画・実施する。		
	③ オンライン授業の環境整備に努める。	様々な場面に対応できるよう、オンライン授業の環境を整備する。		
		必要に応じて技術サポートを行い、教職員がオンライン授業を円滑に実施できるようにする。		
	④ 学校図書館の環境を整備し、利用促進に努める。	学校図書館を整備し、生徒が安全・安心に学習できる環境を整えとともに、利用者の利便性を高める。		
		授業における図書館活用を促進するための工夫改善を図る。		
		図書や読書に親しむ態度を育成するために、図書日よりや新着図書紹介を年に複数回発行する。		
		書籍・雑誌等の情報収集に努めて、適切に図書選定を行い、蔵書を充実させる。		
		廃棄図書の選定基準を明確にし、蔵書の整理を行うとともに、日本十進分類法に基づく蔵書管理の徹底に努める。		
一年次	① 規範意識を高め、基本的生活習慣の定着を図る。	朝の登校指導、昼休みの教室巡回、定期的な頭髪服装指導、生徒面談を実施して生徒の状況把握及び生徒理解に努め、問題の早期発見と対応を心掛ける。		
		家庭との連携を密にし、服装・頭髪指導を通して規範意識を高める。		
	② 基礎学力と学習意欲の向上を図る。	ホームルーム活動で ICT 端末を積極的・効果的に活用することで、生徒が学習に取り組みやすい環境をつくとともに、授業でもスムーズに活用できるようにすることで、学習意欲の向上につなげる。		
基礎学力を測る外部模試を2回実施し、基礎学力の定着度合いを測定する、その結果をもとに、キャリア・パスポートを作成し、各自の進路に向けた学習の必要性を学ぶことで、学習習慣の定着を図る。				
週に1回、年次で英単語テストと漢字テストを実施して、将来の就職試験や大学入学試験に生かすための基礎学力の定着を図る。				
③ 進路への関心を高める。	学校行事や総合的な探究の時間の活動の中で、自己理解を深め、進路への関心を高められるようにする。			
二年次	① 基本的生活習慣の定着を図る。	問題の早期発見・対応のため、登校指導、休み時間、生徒面談などを通して状況把握及び生徒理解に努める。		
		頭髪や服装などの規範意識を家庭と連携しながら高め、社会人として必要となる態度を育てる。		
	② 自他の個性を理解し、多様な価値観を育めるよう支援する。	LHRや総合的な探究の時間において、調べ学習やグループ活動を通して、自身の生き方・在り方や進路への意識が高められるようにする。		
		授業や学校行事などを通して、自他の個性を理解し、尊重し、コミュニケーションを図りながら、良好な人間関係を築けるように支援する。		
	③ 学習意欲を高め、自主的・主体的	すべての生徒が安心して落ち着いた環境で授業を受けられるよう、授業態度の指導を徹底す		

別紙様式 2 (高)

	に学習に取り組む態度を育てる。	る。			
		意欲的に学習に取り組む意識を育て、書写検定、英語検定、漢字検定、数学検定など、一つ以上の資格取得を目指す。			
		家庭学習時間調査に基づき、学習習慣の醸成を図れるような手立てを講ずる。			
三年次	① 基本的な生活習慣の定着と社会人となる自覚の向上を図る。	外部講師の講演会を3回実施し、社会生活に向けた礼儀やビジネスマナーについての理解を深めることで、社会人としての自覚を深める。			
		問題の早期発見・対応のため、生徒面談や家庭との連携を密にし、状況把握や生徒理解に努める。			
		登下校指導や昼休みの巡回、月1回の頭髪・服装指導を通して、規範意識を高める。			
	② 自主的・主体的に学習に取り組む態度を身に付け、進路実現に向け積極的に行動する力を養う。	総合的な探究の時間を活用し、それぞれの課題に対して自主的・主体的に解決できる場を設ける。			
		進路実現に向けてより良い選択ができるよう、生徒・保護者・教員が正確に情報を共有し、適切なサポートを行う。			
四年次	① 社会人となる意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	面談や電話連絡等を通じて生徒や家庭との連携を密にし、社会人となる意識を高めることで、各生徒が健康的な生活リズムを整え、基本的な生活習慣を確立できるよう促す。			
	② 生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	担任、年次職員と各授業担当で連携を図り、面談や進路ガイダンス、ロングホームルーム等を実施することで、生徒の主体的な進路選択・進路実現を支援する。			

※ 評価規準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：やや不十分である D：不十分である